

今週のメニュー

■ [トピックス](#)

◇PVC Design Award 2017 展示会 —東京・大阪・名古屋で開催—

■ [随想](#)

◇「アイルランドの農業廃プラリサイクルの取り組み」その2

名古屋大学 名誉教授 竹谷 裕之

■ [トピックス](#)

◇PVC Design Award 2017 展示会  
—東京・大阪・名古屋で開催—

PVC Design Award 事務局

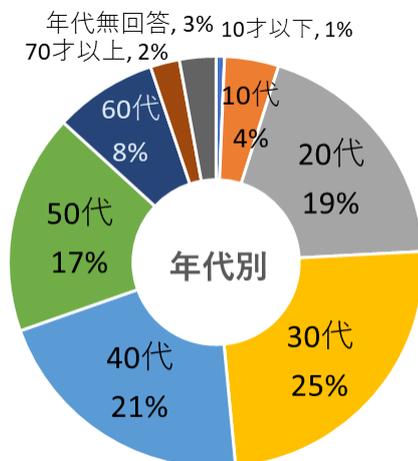
2017年11月16日の「[PVC Design Award 2017](#)」表彰式に続いて、東京・大阪・名古屋の展示会場で受賞作品（9点）及びデザイン提案・製品応募作品（約50点）を展示し、多くの方々に見ていただき、今回も盛況のうちに展示会を終えることができました。

東京の展示会は、2017年11月16日～26日までの11日間、東京丸の内 GOOD DESIGN Marunouchi で開催しました。レイアウトは、本アワードの審査員でもあるデザイナーの鈴木啓太氏（PRODUCT DESIGN CENTER INC.代表取締役）にお願いしました。

11日間で約3,700名の方の来場があり、幅広い年齢層の方に来ていただきました（下図参照）。特に会場の中央に配置した受賞作品には足を止めて手で触ってみたいり撮影したり、時間をかけて丁寧に鑑賞される方が多くその様子が印象的でした。



GOOD DESIGN Marunouchi



来場者の内訳(年代別/東京会場)



東京展示会場の様子



大阪展示会場の様子

大阪の展示会は、2018年1月23日～24日に東大阪市にある大阪メルカート会館（4F 大ホール）で開催し、2日間で約130名の方に来場いただきました。大阪会場は、塩ビ製品の卸の会社が集まっている一角にあり、近くのPVC製品関連会社の社員の方が多く来場いただきました。特に、アワード作品を見ていただく機会の少ない製品加工業の方からは、作品に対する感想、使用している素材や商品化の質問などいただき、アワードへの参加意識の高さを感じました。

名古屋の展示会は、2018年1月26日～27日に名古屋市にあるクリエイティブビジネススペースコード（ナディアパーク 4F）で開催しました。今回は開催日を昨年より1日増やし2日間にしたこともあり、両日で約240名の方に来場いただきました。本アワードでの製品応募はこの中部地区からの応募数が最も多いこともあり、デザイナーや主催団体関係者などの来場が多く、作品の説明や意見交換している風景がたくさん見られました。



名古屋展示会場の様子

今回から硬質PVCも対象に加えたことから、PVCの素材を活かした様々なアイデア作品も登場し、作風に広がりが見られました。これまでの本アワードを通じて得られた経験やヒントが今後のものづくりに生かされ、PVC業界の活力につながっていくことを関係者一同願っています。

お問い合わせ：[info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)  
[PVC Design Award：公式サイト](#)

## ■ 随想

### ◇「アイルランドの農業廃プラリサイクルの取り組み」その2

名古屋大学 名誉教授 竹谷 裕之

今回は、アイルランドにおける農業用プラスチックのリサイクルの仕組みと取り組みの到達点をみた。

アイルランドの農業廃プラスチック・フィルムの70%を超えるマテリアルリサイクル率の高さは、農業用プラスチック資材のメーカーや輸入業者に、資材を市場供給する場合、リサイクルを支援するよう法的責任を課したことが背景としてある。つまり、IFFPGに参加する農業フィルムメーカー等が賦課金を出し、これを原資に農業者負担を軽減して使用済みになった農業プラスチックを的確に回収処理する基礎条件を作り出したからである。メーカー等が持続的に廃プラリサイクルの責任の一翼を担う仕組みが上手く機能したとみることもできよう。なお、フィルム以外の農業用プラスチックを回収処理するFPR（農業プラスチックリサイクル社）は、回収処理料金を農業者から徴収することで運営

されている。

IFFPG は非営利組織で、スロータリーM.理事長の下、8人の理事、及び環境専門家と法律家各1人で構成される理事会で管理運営され、4人の専従職員が業務を担当している。同組織の管理運営費並びに回収処理の費用は、前述したメーカーへの賦課金と農業者が支払う「処理料金」で賄われる。農業者は排出時に回収センターに直接搬入する場合、IFFPGメンバーのコード番号付き廃プラは2016年でト、当たり30€、メンバー以外のコード番号付廃プラは170€の料金が賦課される。庭先回収を依頼するとト、当たりそれぞれ80€、200€を課せられる。農業者の負担はメーカー賦課金がある分だけ安価である。

回収拠点は全国で2015年は227ヶ所用意され、農業者が回収拠点到直接搬入した農業廃プラが23,302ト、残り1,907トはIFFPGの提供する庭先回収サービスを利用した。2016年は回収拠点が10ヶ所増やされ、237ヶ所となっている。回収拠点は市場や農協、行政施設の構内などが充てられ、平均して農業者から6km以内に一つ用意され、通常年一回、日を指定して農業者の直接搬入に依る。農業者はいずれの回収拠点到搬入しても良い。写真はトラクターで持ち込んだ農業者の廃プラをトラックスケールで計量している場面である。



回収拠点到搬入された農業用プラスチックのトラックスケールによる計量

IFFPGは農業者が、賦課金を忌避しIFFPGのメンバーにならないメーカーから農業用プラスチック資材を購入しないように、そしてリサイクルに参加しやすいようにする取り組みを、熱心に進めているのである。

IFFPGが回収農業フィルムを処理委託している業者は7業者、全国を7つのエリアに分け、処理業者の再生処理を下支えしている。処理施設の工程は、サイレージフィルム洗淨の場合、荒破碎機—一次洗淨（スクリュ—回轉羽付水槽、長さ6m）—遠心性乾燥機（土と水の分離）—破碎機—二次洗淨—乾燥压榨機（水分率80%→1%に）で構成され、フラフ化の処理工程は時間当たり500~1000kgの再生製品製造能力を持つ。業者の中にはこの後ペレット加工を行う業者もある。これら工程管理が的確に行われることで、アイルランドの場合、大半が国内でマテリアルリサイクルされる状況を作り出しているのである。

再生品としては黒色のゴミ袋、パイプ、防湿シート、ベンチ等が主で、社会的ニーズの高い製品に再生することで、出口も持続性ある状況になっている。

⇒ [バックナンバー](#)

## ■ 関連リンク

- [メールマガジンバックナンバー](#)
- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601    ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <http://www.vec.gr.jp>    ■ E-MAIL [info@vec.gr.jp](mailto:info@vec.gr.jp)

---

---